

## 舞台芸術を通した子どもの豊かな育ち支援事業

NPO 法人岡山市子どもセンターは、2001年に発足し、舞台芸術をとおして子どもの豊かな育ちを継続的に支援しています。

### 1. 鑑賞会の継続

鑑賞会への延べ参加者数は、120,500人。前身の子ども劇場時代も含めると53年間で600作品の鑑賞会を実施し、参加者は430,000人以上となりました。

鑑賞会を企画運営するのは、子どもたちに文化芸術を届けたいと思う市民ボランティアです。そのほとんどが女性です。継続していることで、小学生だった子どもが大学生になり、ボランティアとして関わっています。また、中学生・高校生だった人が親になり、子どもを連れて参加するなど三世代での参加も徐々に増えています。観る人から企画・運営する人へ、ボランティアとして子どもの育ちを支える人へと、人材の循環が見えるようにもなりました。

2011年に発生した東日本大震災では、子どもを含む多くの方々の日常が困難な状況になりました。岡山へ広域避難している方々は1万人にもなりました。2012年には、(一社)ほっと岡山とも連携をして岡山県危機管理課を通して、東日本大震災による広域避難親子を鑑賞会に招待することを始めました。同時に、県内の養護施設の子どものたちも招待し、子どもたちに文化芸術を届ける活動にも力を入れました。

2020年2月から新型コロナウイルス感染拡大により、約7か月間、予定していた鑑賞会は全て延期としました。その後、2020年9月から、できる限りの感染予防対策を行いながら鑑賞会を再開し、今日に至っています。

長引くコロナ禍で、おかやま親子応援プロジェクトの立ち上げメンバーになり、「子どもの育ちを止めない」宣言を行いました。その後、親子応援メールを使って、2021年11月鑑賞会「エルマーのぼうけん」にひとり親世帯100人を招待することを決めました。一夜にして満員となりましたが、結果的に74世帯184人を受け入れました。

併せて、児童養護施設の子どものたち(58人)や広域避難親子(19人)を招待することができました。

子どもの豊かな感性や想像力を育む舞台芸術鑑賞へのニーズの高さや期待に責任の重さを感じるとともに、多くの方のご希望に添えなかったことを今後の課題として、解決していきたいと考えています。

年度	公演日	作品名
2019	5月11日	「11びきのねことへんなねこ」
	5月30日	「銀河鉄道の子」
	7月13日	「魔法つかいのおとぎばなし」
	7月20日	「ジーン・マフスキーのサレルノ・コメディ・マジック2「エンコト」」
	9月7日	「かあちゃん取扱説明書」
	9月20日	ベイビーシアター「うたのたね」
	10月19日	「Witty Lookの「アイブ・ティーズ」」
	12月6日	「はねるマレット うたうマリンバ」
*新型コロナウイルス感染拡大により延期とする		
2020	9月4日	KUUKI(ベイビーシアター)
	9月12日	「筋魂感」
	11月3日	20周年記念鑑賞会「エルマーのぼうけん」
	12月5日	「ショ・ジョ・ジ」
	1月9日	「はれときどきふた」
	2月16日	「ちゃんぶるー わたしが幽霊?!修学旅行」
	2月20日	「笑劇☆紙芝居しばい その1」
2021	7月3日	こぎつねコンとこだぬきボン
	7月10日	おじいちゃんのちいさなひみつ
	9月11日	いつでもどこでもびりとブッチー
	9月20日	天満のとらやん
	11月27日	すてきな三人ぐみ
	12月18日	一人で演じる走れメロス
	3月12日	キッズジャズ

過去3年間の開催実績

## 2. 地元の方々との協働

当法人の鑑賞会は、中国四国地方の子ども劇場や子どもと文化全国フォーラム（舞台芸術企画委員会）と調整をしながら、全国で活動している創造団体を岡山に招聘し鑑賞の機会を提供しています。併せて、地元のアーティストとも協働で、鑑賞会を企画・運営することにも力を注いできました。

岡山出身のピアニスト松本和将さん、倉敷在住の山部兄弟と倉敷天領太鼓のコラボレーションは、共に創りあげた作品です。子どもから大人まで多くの参加があり、次世代を担う若者の舞台芸術に魅了されました。

「博士の愛した数式」では、原作者小川洋子さん（岡山市出身）をお迎えして講演会を行いました。小川さんの高校の同窓生の方々にもお声掛けして学習会を行い、鑑賞会に参加を呼び掛け、鑑賞会当日まで一緒に取り組みました。

「あの夏の絵」では、高校演劇に関わっておられる先生方や高校生、また、岡山市出身の俳優岡山豊明さん（青年劇場）を招いてワークショップや学習会を行い、新たなつながりも生まれました。

発足 10 周年記念鑑賞会として実施した大型人形劇「火の鳥」では、岡山少年少女合唱団で合唱の指導をされている山下愛由子さん（声楽家）に協力をいただき、市民公募の子どもたちと練習を重ねました。鑑賞会当日は、これまでの練習の成果が十分に発揮され、心に残る鑑賞会となりました。

2008 年 9 月「松本和将&山部兄弟+ス<sup>パ</sup>シャルユニットジ<sup>ョ</sup>イントコンサート」

2009 年 9 月「松本和将&山部兄弟+倉敷天領太鼓“一刀”ジ<sup>ョ</sup>イントコンサート」

2009 年 11 月「博士の愛した数式」

2010 年 11 月「火の鳥～黎明編～」

2018 年 10 月「あの夏の絵」

大学生のボランティアについては、2015 年から ESD 学生インターンシップの受け入れも始まりました。鑑賞会にも関わってもらい、子どもに関わるボランティア活動を通して若者の人材育成を継続的に行っています。

## 3. 創造団体との連携・協働

周年記念鑑賞会をはじめ、開催時期や作品の内容を考慮し、創造団体との新たな企画に重点を置いてきました。鑑賞するだけではなく、地元アーティストと何かできないか、鑑賞会を通して多くの人に子どもと文化芸術について周知できる機会はないか・・・等々、新たな取り組みを考えてきました。また、文化庁の事業助成により、2021 年には「オズの魔法使い with オーケストラ」（かかし座）とベイビーシアター「うたのたね」（山の音楽舎）、2022 年には海外作品チェコの人形劇「快傑ゾロ」など全国ツアーにも参加し、新しい全国的な取り組みも視野に入れた挑戦を続けています。

また、子どもと文化全国フォーラムにも参加登録をし、子どもの文化権についての学習も重ねています。これまでのつながり、さらに多様な人・団体とのつながりを広げ、「子どもと舞台芸術大博覧会 2024 in おかやま」を新しい劇場で開催し、「子どもの文化権の保障」を社会に発信していきたいと考えています。2022 年度は、そのために実行委員会を立ち上げるなど準備の年にしていきます。